

七、 いざという時のために

1. エンディング・ノートの勧め（資料 23 参照）

これまでの自分を振り返り、今後の生き方を考える良い機会

自分の財産（預貯金、有価証券など、生命保険など）の確認ができる

家族に自分の考え方を表明する機会（残された者が、判断に困らないように）

⇒ 退職時の作成がお勧め（状況の変化があった時に更新する）

2. 葬式、お墓そして遺言

（1）葬式

多くは、葬儀社やお寺の言われるままに・・・

自分の葬式を決めておく

どこで、どのような形態で、遺影は？香典は？誰を呼ぶか呼ばないか



（2）お墓

墓地の種類 — 寺院、公営、民営など

お墓の種類 — 家墓、永代供養、納骨堂、手元供養など

仏壇、位牌

（3）遺言（資料 23 頁）

自分自身の意思を明確にするとともに、“争族”を避けるために

次のような方は、ぜひ

- 相続人が多い方、若しくは相続人がいない方
- 奥さんに財産を残したい方
- 子供がなく、しかも御主人の両親も亡くなられている方
- 他に兄弟がおり、自分の親の身の回りのことを、奥さんに面倒を見てもらっている方